

札幌学院大学バリアフリー委員会 バリアフリー通信

OB・OG会 (ベストフレンドの会)

10月12日(日)午後3時から札幌学院大学G館5階特別会議室で、札幌学院大学バリアフリー委員会OB・OG会であるベストフレンドの会(以下BFの会)が行われました。参加者は在學生や卒業生、教職員合わせて約30名でした。最初にBFの会会長である長谷川裕也さんから開会の挨拶をいただき、続いて現リーダーである江崎拓郎さんから現在の活動報告、難聴学生からの報告、各部長からの活動報告を行いました。その後長谷川裕也さんからBFの会の設立経緯やその趣旨などの説明があり、その後卒業生と世話人代表である新國三千代先生から感想をいただきました。午後6時から、札幌で在學生・卒業生・教職員による懇親会も催されました。懇親会では参加者がBFの会では聞けなかったことを話し合うなど、終始和やかな雰囲気の中交流をしていました。(文責 萱野翔太)



みんなでしゃべり場

10月15日(水)午後6時30分からA303教室で、第3回みんなでしゃべり場が行われました。参加者は23名で、今回は「裁判員制度について」をテーマに行われました。まず4グループに分かれ、グループごとに「裁判員制度のイメージや不安」についてディスカッションを行いました。その後、下館裕希さんから裁判員制度についての説明を受け、2度目のディスカッションを行いました。各グループの意見を聞くことができ、大変勉強になったのではないのでしょうか。(文責 笹綾花)



五大学交流会

11月3日(月)午後1時より北星学園大学で五大学交流会が行われました。参加大学は、道都大学、北星学園大学、北海道大学、酪農学園大学、札幌学院大学、北翔大学でした。

★企画★

企画は、北海道大学の主催で行われました。1つ目は『ザ・シャッフルクイズ』で、5グループに分かれての対抗戦でした。この企画は、2つの単語を混ぜ合わせて作られた文字列から、隠された二つの単語を見つけ出し、手話や指文字で解答するというゲームです。参加者は問題に四苦八苦しなながら、時に楽しそうに、時に悔しそうにゲームに熱中していました。

2つ目の企画は『花より団子よりビンゴ!』でした。まず二人一組のペアをつくり、ペア内で自己紹介をした後パートナーの名前を3×3マスのビンゴカードの好きな場所に書き込みます。その後他のペアと自己紹介をして名前をビンゴカードに記入し、マスが全部埋まるとビンゴゲームが開始されます。参加者はビンゴゲームで次々と読み上げられる名前に、一喜一憂しながら終始楽しそうな雰囲気でした。(文責 萱野翔太)



♪手話コーラス♪

企画の後には、札幌学院大学が主催する手話コーラスが行われました。曲はGReeeeNの「キセキ」と、合唱曲「Believe」です。最初に本学の学生が見本として披露しました。そして、曲ごとに2つのグループに分かれ、それぞれ他大学の方に細かい手話表現やタイミングなどを説明します。短時間の練習に苦戦しつつも、最後にはグループごとに1曲ずつ発表しあい、お互いの頑張りを拍手で締めくくりました。(文責 小林舞子)



◇茶話会◇



最後に、北星学園大学主催の茶話会が行われました。参加者は8人～9人ほどの9つのグループに分かれ交流しました。参加者はグループ内で自己紹介をすることから始まり、お菓子を食ったり、飲み物を飲んだりしながら、用意されたテーマの「手話を始めたきっかけは？」や「初めて覚えた手話は？」などについて手話で答えていました。最初は緊張した雰囲気で話をしていましたが、次第に笑顔が多く見られるようになり、和やかな雰囲気で交流していました。(文責 澤田晴恵)

お知らせ★3号館に自動ドアができました！！

札幌学院大学の3号館の玄関が自動ドアに改修され、また1つバリアフリー設備の改善がされました。この自動ドアの改修に関しては、昨年度からバリアフリー委員会で申請していたもので、今年の後期からついに使用可能になりました。自動ドアに改修されたことによって、車椅子を利用している学生からは「ドアを開けてもらわなくても出入りできるようになった」「広いスロープがつき、安全に移動できるようになった」などの声が上がっています。



♡ I Love BF ♡



今回の「I LOVE BF」は、全国ろう学生懇談会の事業の1つである、第28回全国ろう学生の集いに参加した社会情報学部眞鍋秀之さん、人文学部芦崎航さんにお話を伺いました。全国ろう学生の集いとは、全国からろう学生や健聴学生が集まり、学びあい語り合いながら自分自身というものを見出していくものです。

Q. なぜ参加しようと思ったのですか？

芦崎：1年生の夏に参加した時の友達と再会したいと思いました。自分ではまだ手話が使いこなせていないし、他大学の人の考えも知りたいとも思いました。

眞鍋：きっかけは先輩から誘われたことです。自分も新しい挑戦の意味で参加しました。

Q. 今回の場所はどこでしたか？また、どういうところでしたか？

眞鍋：場所は愛知です。

芦崎：愛知はうなぎが有名で食べ物もユニークで良い環境でした(笑)。企画の中で土地めぐりはなく、個人観光でした。

Q. 参加者のみなさんとはどのような関わりをしましたか？

芦崎：参加者には、ろう者の家族の中で育った人、健聴の家族の中で育った人がいます。企画を通して手話や口話でコミュニケーションをとり、文化の違いを知れました。

眞鍋：手話が分からない、速いという人もいました。手話表現が違ったり、方言もあるので、自分もコミュニケーションが難しいと思ったし、色々な人がいると感じました。



Q. 行く前と行った後で変わったことはありますか？

眞鍋：行く前はどんな集いになるか雰囲気はどうか考えていました。実際に参加してみて、健聴者にも口話法・手話の使い方をどう考えてもらうかが、ろう者にとって大切なことだと思えるようになりました。

芦崎：2008年度会員の集いの実行委員をやっていますが、最初は何をやっているかわかりませんでした。でも実際に参加して手話に対して勉強が少ないと考えさせられました。

Q. これから参加しようと考えている人に何かアドバイスや伝えたいことはありますか？



芦崎：『一期一会』。全国から1つの場所に集まるということは全国ろう学生懇談会しかありません。様々な考え方を学べる場所です。ちなみに2008年度会員の集いは、北海道支部が来年3月上旬に札幌で行います。北海道支部というのは、全国ろう学生懇談会のそれぞれの支部が聴覚障がいを持つ学生が一人にならないために作られた団体です。

眞鍋：健聴者の方も北海道支部の準会員になってくれたら嬉しいです。新しい出会いからは、新しい学びがあります。全国ろう学生懇談会は、自分が知っていることだけでなく、周りを通して何かを学ぶことができる場です。

♪ 編集後記 ♪

山本由貴：編集・推敲に携わりました！製作時間5時間です！！頑張った！！笑

兜いずみ：山本と共に頑張りました！！笑

小林舞子：推敲抜けて戻ってきたらすっごいの出来てました。↑お疲れ様！！笑

渋谷大介：主にAltキー担当でした！！笑

山田洸平：今回は「お知らせ」担当でした！！笑

今田拓実：微妙に推敲に参加しました！！笑

池田大樹：今回は推敲に参加しました！！笑

澤田晴恵：今回も・・・皆が頑張ってくれてすごくいい通信が完成しました！！！！